

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年5月17日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870200938		
法人名	株式会社 東海荘		
事業所名	グループホーム 東海荘ひだまり	ユニット名	2F
所在地	〒317-0071 茨城県日立市鹿島町2-12-9		
自己評価作成日	平成27年11月16日	評価結果 市町村受理日	平成28年6月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kihon=true&JigyosyoCd=0870200938-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年1月20日	評価機関 決済日	平成28年5月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・お茶や食事おやつの時間は職員も一緒に座り同じものを飲食し談話をしながら過ごしている。・一人一人の居室スペースが十分にあり日当たりも良い。家族面会時にもゆっくりと談話ができている。・よほどの体調不良時や見たいテレビがあるとき以外は就寝までほぼ全員が共有スペースで過ごされている。・皆で行う体操のほかにケアプランに沿った個別のケアチェックを毎日時間を決めて行っている。・定期的な診療所からの往診、散髪やフットマッサージ、ボランティア等外部との接触も多く家族のほか友人の面会もある。・体調不良時に部屋で療養している利用者がある時には他利用者が時々訪室し見舞っている。・一緒にプランター栽培した野菜や利用者家族の畑でとれたものなど旬の食材が食卓に乗る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>利用者の散歩コースは近くの商店街や公園などになっており、多くの地域住民と交流をもつほか、近くの喫茶店でお茶を飲んだりして、地域とつながりながら穏やかに生活をしている。</p> <p>献立は1週間毎に職員が立て、ほぼ毎日利用者と一緒に買い物に出かけ、季節の食材を取り入れた食事を提供しているほか、おせち料理や節分祭、クリスマス会などの行事食は利用者の楽しみとなっている。</p> <p>事業所は現在までに数十人の看取り介護を経験し、看護師を中心に全職員は利用者や家族等の意向にそった看取り介護ができるよう、協力医療機関と連携して取り組んでいる。</p> <p>職員は事業所の理念の中にある「自分らしく」に重点を置き、朝の体操や発声練習、スクワットを取り入れ、利用者の残存能力が低下しないよう取り組むとともに、利用者一人ひとりが生き生きとした生活ができるように支援している。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファやミーティングなど話し合いの場において時々理念を確認し意識を持たせている。	地域密着型サービスを踏まえた事業所独自の理念を玄関の目につくところや各ユニットのエレベーター前に掲示している。 職員は朝礼時や職員会議時に確認するほか、理念に掲げられている「自分らしく」を重点に置き、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は町内会活動もしており近隣の方との交流も深い環境にある。	法人の代表者は長年地元に住んでおり、事業所は自治会に加入し、地域住民とは顔馴染みで利用者が散歩時には気軽に声かけ合うほか、利用者がチラシで折ったゴミ箱を近くの小学校に寄付している。 演芸や三味線、フラダンス、折り紙、美容エステなど様々なボランティアを受け入れ、利用者が地域住民と交流できるように支援している。 事業所の夏祭りでは、多数の地域住民の参加があり、地域の一員として交流ができるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部の人が施設に見学や相談をしにきた際などに事例を挙げて支援方法等を話すことがある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	他施設との情報交換をする中で他施設や地域周囲の動向を把握することができたり、イベントのヒントや利用者への対応等の情報などを得ており、できることは取り入れサービス向上に生かしている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、地域の代表、民生委員を委員として2ヶ月に1回開催し、会議録を作成しているが、市職員の毎回の出席までには至っていない。 会議では事業所の状況や行事などを報告するとともに、意見交換を行っている。 委員からは介護保険に関する質問やマイナンバーに関する意見が出たり、事業所からは保育園の来訪をお願いするなど、活発な意見交換をしている。	運営推進会議に市職員または地域包括支援職員が毎回出席できるよう、日程の調整や連携を図ることが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	身寄りのない方や生活保護の方も受け入れており、市のケースワーカーとの連絡もこまめにとって協力関係を築けるようにしている。	管理者は電話だけではなく、月1回程度出向いて入居状況や事業所の運営状況、サービスの課題について相談して助言を得るなど、協力関係を築くように努めている。 管理者は市主催の事業者懇談会に参加している。 月1回市の担当者の来訪があり、生活保護受給者について生活状況などを話し合っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスやミーティング等において身体拘束についての話し合いを持ちどんなことが対象になるのか等の再確認をしているが、事業所出入り口の鍵は夜間は防犯上施錠をしている。	管理者はミーティング等で身体拘束について話し合っているが、身体拘束排除に向けたマニュアルの作成や内部研修を実施するまでには至っていない。 現在座位保持が困難で車椅子から転落する恐れのある利用者に対しては、やむを得ずY字ベルトを使用し、家族等に説明をしているが、書面にて同意を得るまでには至っておらず、「経過観察記録」や「再検討記録」を作成するまでには至っていない。 玄関は施錠せず、利用者の自由な暮らしを支援している。	身体拘束排除マニュアルを作成し、内部研修を行うことを期待する。 やむを得ず身体拘束をする場合には、家族等から書面で同意を得るとともに、全職員で定期的に話し合い、「経過観察記録」や「再検討記録」を作成して記録に残すことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で情報を共有しながら接遇面での定期的な教育をしている。 職員が自分の強い口調に気付かずに話しているのを見かけた際には互いに注意し合う環境にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人になった家族の方がいたので相談に応じたことがあった。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にも面談をし、契約時に再度内容を理解し納得されてから契約するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には面会時に生活の様子を伝えた際やケアプラン更新時に要望や意見をうかがっている。利用者へは生活の中での談話中に把握したりケアプラン更新前にも個別にうかがっている。事業所窓口に「ご意見箱」設置。	重要事項説明書に、事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記し、契約時に家族等に説明している。 利用者からは日々のふれ合いの中で、家族等からは面会時や事業所の夏祭りに家族等を招待し、意見や要望を聴くなど、運営に反映できるよう取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とともに仕事をしており、接する時間も多いため随時、意見や改善したほうがよいことなどの提案を受けており、必要なことは取り入れている。カンファレンスへ出席した際にも職員の意見を聞き運営に反映させている。	代表者は日頃から話し易いよう職員とコミュニケーションを図ったり、随時意見や要望を聞いている。 管理者は希望休を取り入れるほか、職員の意見を受けて不具合を生じたシャワーチェアの交換をしている。 年2回全職員が参加できるよう夜に会議を開催し、職員に意見等を聞いて話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一緒に仕事をする中で意見を聞きやすい環境にある。個人の勤務時間や体制についての希望は極力取り入れながらも他職員への公平性を保てるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や勉強会があるときには多くの職員が参加できるようシフトの調整に努めている。多くの職員が研修を受けられる機会を作り資質の向上が図れるように努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	お互いの運営推進会議への参加や事業者懇談会などには積極的に参加して交流を密にし意見の交換を行っている。また、電話やファックス等での伝達もしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前に面談をし不安に思っていることや要望等を聞き利用者が安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所する前に面談をし不安に思っていることや要望等を聞き家族が安心できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談を行った際他のサービスが適切な場合は相談の上、他のサービスを提示したり他の施設の見学も勧めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできるどころは見守りまたは軽介助で手伝わせてもらっている。また、食事やお茶の時間には一緒に摂り時間を共有している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の身体状態や要望や思い、生活の様子等を家族に伝えながら現在の家族側の状況も会話の中で把握し、支障のない範囲で利用者に伝えるなど関係調整を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の人や所属していた会なども含め、家族や親せきとの関係が円滑に保てるよう連絡や近況報告をしている。	職員は利用者の家族等や知人の面会時には、居間や居室でお茶などを出し、ゆっくり寛げるよう配慮している。 日頃から事業所近くの商店街に買い物に行ったり、利用者の中には馴染みの喫茶店でコーヒーを飲んだりするほか、近くのお店に外食に行くなど、日常的に馴染みの関係継続ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話しかけや会話を特定の利用者のみならずことなく言葉の少ない利用者へも話を振り話題に参加出来る工夫をしている。皆で一緒に行う毎日の体操やレクは日課としており、利用者同士のリビングでの会話も多い。皿を下げたり洗ったりなどができる人はそうでない人の助けをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後でも必要なことや求めることがあれば随時相談に応じている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話や生活状況を見ながら適宜本人の希望や意向を聞いている。又、プラン更新時期の他必要時には個別に時間を持ち把握に努めている。	職員は利用者との日々の関わりの中で、コミュニケーションを図りながら情報を収集し、一人ひとりの暮らしの希望や要望を把握して職員で共有し、思いにそった支援に努めている。自己表現が困難な利用者には、表情や行動をよく見て何をしたいのか、どのように暮らしたいのかを読み取り、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの聞き取りや、情報提供書等から把握をしている。また、入所前までのサービス担当者に直接電話で情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌やカンファレンスをはじめ、バイタル表、個別ケア項目の実施状況表、排泄チェック表、食事チェック表、連絡ノートなどで一人ひとりの状態を把握し、実際に生活状況を目視して確認している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者個々に担当者を決めてケアの提供経過状況を記録してもらい、内容が現状に即したものであるかどうかをカンファレンス等で確認しながら新たな課題があるときには話し合いで支援の方法を皆で決めている。	介護計画は利用者や家族等の意見や要望を聴き、カンファレンスを行って計画作成担当者が作成している。 3ヶ月又は6ヶ月毎にモニタリングを行うとともに、6ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。 利用者の状態等に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎回、業務に就く前には職員間の連絡ノートに目を通す決まりになっている。服薬やケアの方法が変わったなど特記事項のある場合には連絡ノートに記入しているので情報を早急に共有できるようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他科受診の必要がある時に家族対応が困難な状況にある利用者に対しては、付き添いや送迎を行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で利用できる施設利用や行事参加をすることなどの他に、家族や友人・知人との外出が出来るように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する病院に受診をする場合は優先しているが、ほとんどの利用者は当施設のかかりつけ医に転向している。医師の指示で検査などの指示があれば家族もしくは職員が付き添って受診している。	管理者は契約時に、利用者や家族等に希望するかかりつけ医を確認しているが、ほとんどの利用者は協力医療機関を受診している。 協力医療機関への受診は職員が付き添い、受診結果は家族等に電話などで連絡するとともに、看護記録を作成して全職員で共有している。 非常勤看護職員と協力医療機関との連携が取れており、緊急時にも対応ができる体制になっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、口頭や連絡ノートによる情報伝達を看護職員にしている。看護職員は利用者全員に問診、身体状態をチェックし、口頭でのもし送り及び利用者ごとの日誌に記録している。また、緊急時にはいつでも往診や訪問看護が受けられるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には医師や相談員等と電話連絡や面談をしながら情報交換をし、できるだけ早く退院できるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意思を尊重し相談した上で同意書を取り、医師と連携しながら介護に取り組んでいる。看取りの同意書を確認しているが徐々に変化していく本人や家族の意向を随時確認しながら慎重に進めている。	事業所は「重度化した場合における対応や看取りに関する指針」を作成し、家族等に説明して書面で同意を得ている。 重度化対策マニュアルを作成して昨年は4名、現在までに十数人の看取り介護を経験している。 職員は利用者や家族等の意向にそった介護ができるよう、協力医療機関と連携を図って取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	提携している医療機関は24時間体制であるため、緊急時には連絡を取り指示を仰いでいる。連絡網の作成により連絡の体制を整えているが職員の定期的な初期対応訓練については実施には至っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施や災害時に近隣の協力を得られるように運営推進会議などにおいても話題にして話し合っている。地域へは協力依頼の旨を町内の青年会に伝えてある。	夜間想定を含む総合避難訓練を年2回実施しており、地域住民の参加を得るまでには至っていないが、運営推進会議で災害時には地域の協力を呼びかけているほか、町内の青年会に協力を要請している。 訓練後に反省会を行ない、結果を詳細に記録して全職員で確認している。 災害に備えて米や飲料水、食料などを備蓄しているほか、業務用冷蔵庫に1週間程の食糧を備えている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常時職員間で接遇内容を確認し合い言葉の暴力などには特に気をつけるよう話し合っている。	職員は利用者の尊厳やプライバシーを大切に、常に職員で話し合っ利用者の羞恥心や自尊心に配慮したケアに取り組んでいる。 車いす用のトイレにカーテンを設置したり、入浴は1人ずつ支援するなど、プライバシーを損ねないように対応している。 利用者の名前で話しかけているが、親しみをこめながら敬意をもって接していることがうかがえる。 個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかる書棚に保管して情報漏洩に注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望や意見にはその都度話を聞き可能な範囲で実現できるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを尊重し自室で過ごす選択の場合も適宜声かけし時々様子を見るなどしながら支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常来ている衣服は毎日洗濯をしている。誕生会やイベント時には薄く化粧を施したり、本人の希望で美容クリームなどの要望があるときなどには家族に相談し、持参してもらっている。美容室によるカットを2か月ごとに実施し整容を保てるようにしている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は主に職員が行うが、テーブル拭きや下膳、食器洗い等食事にかかわる補助的作業はできる利用者と一緒に行っている。又、その時々々の身体状況による嚥下や咀嚼能力に応じて適宜食事形態を工夫している。	職員は食事介助や声かけをしながら利用者と同じテーブルに着き、同じ食事を摂っている。利用者は職員と一緒にテーブル拭きや下膳、食器洗いなど能力に応じた役割を担っている。1週間毎に職員が献立を作成し、ほぼ毎日買い物に出かけて季節の食材を取り入れた食事を提供しているほか、雛祭りや誕生会、敬老会、七夕祭りなどの行事食は、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	活動量や身体状態により個々に応じた主食量で提供している。毎月の体重測定記録で著名な変動のないことを確認したり定期的な血液検査の数値から栄養状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で歯磨きのできる方にはしてもらいが、その際にも、みがき残しはないか職員が口腔内を確認するようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意や便意の薄い利用者に対しても日中は時間を見ながら声かけしてトイレへ誘導し便座に座って排泄出来るようにしている。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ誘導によりトイレでの排泄を促している。夜間はオムツ使用でも、日中はリハビリパンツを使用し、職員の適切な支援によりトイレで排泄ができるよう支援している。トイレには手摺を設置して、使用し易いよう工夫をしている。夜間は居室にポータブルトイレを置いて排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分補給の観察や促しをし毎日記録をして不足がないかを確認している。運動は個別に行う項目を毎日実施している。排泄チェック表を基に3日間排便が見られない場合には医師と相談し薬剤を使用をすることもある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員と利用者が一緒に過ごせる時間を確保するために程よい時間を選び数人ずつ毎日入浴できる体制を取っている。その際には本人に了解を得て時間や順番を考慮し調整をしている。	入浴は週3回以上で午後に支援し、利用者の希望によっては毎日朝と夕方に足浴支援をしている。季節に応じて柚子湯や菖蒲湯のほか、入浴剤で季節感や温泉気分を味わい入浴が楽しめるよう支援している。浴室は手摺を設置したり、シャワーチェアを使用し安心して入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢、身体的に必要と思われる利用者に対しては30分程度の休息が出来るよう本人の意思を確認してから居室ベッドで休んでもらっている。夜間帯ですぐに入眠出来ずに起きている方に対しては他者への良眠の妨げにならないよう職員と一緒にリビングで過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的なカンファレンスや診察のあった際の申し送り事項伝達から情報を共有している。看護師や薬局の指導を受けながら職員も必ず「お薬手帳」や日誌、連絡ノートに目を通して服薬状況や定期薬変更時の情報を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や食後の片付け、紙箱作りなど得意分野を個々にしていただき、必ず労をねぎらう言葉かけをしている。個別または数人で近隣への散歩や外出を行うなど季節感や開放感などが感じられるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設は市街地であるものの交通量の少ない場所であり歩いて5分ほどのところに公園もある。気候の良い時期には日常的に散歩に出かけている。また、家族や友人と一緒に馴染みの場所へ行けるように調整したり、施設職員と一緒に車で外食へ行くことをイベントとして取り入れている。	天気の良い日は散歩に出かけたり、近くの公園に行くなどで、利用者の気分転換を図っている。 家族等や知人が来訪した際は、一緒に食事や買い物に出かけている。 吉田記念館や桜の花見のほか、近くの海までドライブしたり、外食などの外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望する利用者に対しては小口で預かっているお金を持たせ職員と一緒に買い物に行ったり喫茶店でお茶を飲む際に、店側との金銭の受け渡しを支援。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際には電話の使用や手紙の代筆等も行い家族や大切な人たちとの交流が続けられるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よい環境で過ごせるよう室内温度のこまめな調整やテレビの音量に随時配慮している。季節の花を飾ったり行事を表した塗り絵などの作品掲示、イベント時の飾りつけなどを通じて華美にならない程度に季節が感じられる工夫をしている。	共用空間の居間は十分な採光を取り入れたり温度管理をしているほか、長い廊下は利用者の歩行訓練に利用したりしている。 各ユニット毎に季節の花を飾ったり、利用者の作品を掲示したり、節分の飾りつけがあり季節が感じられるよう工夫をしている。 玄関の壁際には行事の写真が飾ってあるほか、観葉植物や季節の花があり、穏やかな雰囲気づくりをしている。 居間やトイレ、浴室などはいずれも清潔に保たれ、利用者が気持ちよく生活できるよう配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビが好きで良く見える席を希望された際などには、他との兼ね合いを見ながら可能な範囲で配置している。また、話の合う人同士を近くの席にしたり、反対にトラブルになりそうな人同士に対しては少し離すなど、当事者間のみでなく他利用者も安心して過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていたテレビや引き出し、着ていた洋服、家族の位牌や写真等本人の生活の中に普通にあったものを置いている。	居室にはカーテンやエアコン、ベッド、箆箆、寝具類が備え付けられているほか、日当たりの良い環境となっている。 管理者は使い慣れた物品を持参してもらえよう説明しており、利用者は家族等と相談しながら使い慣れた湯たんぽやカレンダー、整理箆箆などを持ち込み、居心地よく暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行時に廊下の手すりに捕まったり、リハビリ的な立ち上がり練習等を行う際にも手すりを利用している。自分で口腔ケアができる車いす使用の利用者へは本人の手が届く位置にコップや歯ブラシを置くなど利用者の目線に合わせている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム東海荘ひだまり

作成日 平成28年6月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	マニュアルの整備不十分	身体拘束への周知	整備と周知のための勉強会開催	6か月
2	6	経過観察等の記録がない	経過観察・再検討記録	カンファレンス時に検討し、記録	3か月
3	4	市職員の確実な参加	市職員の毎回の参加	案内送付を開催2週間までに送付	2か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。